

# 「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成30年度実施状況について

事業名称等	提供区域	意見等
	1～3号	
延長保育事業		目標値が高く設定されているため、達成度が低い数値になっているが、実質運用上は延長保育・一時保育共に、ニーズが満たされていると思われ、市が行う子育て支援事業の達成度としては良いと考えられる。新年度の目標値(予想値)について、算出法を精査し、予想値の設定がより精度よく行われると、達成度の数値%の信頼性も上がると思われる。
		この事業については計画(見込み)と実績の差が大きいが、事務局より理由を断定するのは難しく、また、減少=悪ではないとの説明があり、納得した。仮に29年度の見込み量で計算してみると、そう変化はなかった。なぜここまで見込み量を増やした(特に中心部、東部、南部)のか、純粹に疑問に思った。

# 「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成30年度実施状況について

事業名称等	意見等
<p>児童クラブ運営事業（放課後児童健全育成事業）</p>	<p>支援員の確保、特に長期休暇期間中の支援員確保については市内大学等との連携を図り、十分な数の確保に努めてほしい。また普段においても老人クラブやシルバー人材センター等との連携も視野に入れて積極的に支援体制づくりに取り組んでほしい。</p>
	<p>放課後児童クラブの入会ニーズは、目標に対して一定の充足率を確保できている点は評価できる。ただし、入会児童の増加に対応した質の保障については、専用施設の増築、新築等の整備以外にも支援員の充足状況や支援員の支援力強化についてニーズを把握し、検討が必要と思われます。</p>
	<p>多学年や発達が気になる児等の幅広い受け入れをしており、職員の資質が問われる。人材確保と資質の向上が必要。また、児童クラブ内で抱え込んでいるケースも多く、学校や福祉機関などの他機関との連携も積極的に取り組める仕組みを作してほしい。</p>
	<p>小学校と直接つながっている児童クラブは、保護者にとって安全安心な場所であり、開所・閉所時間の延長は、一部保護者には喜ばれたことと思います。問題は、各地区の運営委員会が主体のため、児童クラブの指導員の児童に対する支援が不透明であり、長年の体制で地域から不満不信の声があっても、表面は何事もなく運営されている面があるのではと懸念されます。ただ、事故なく児童が成長していく事業として大きく評価されることと思います。</p>
<p>子育て短期支援事業</p>	<p>実質31人しか利用者がいないのは何かニーズに合っていない問題があるのではないかと。</p>
	<p>利用施設5施設についても、一般には知名度が低く、誰でもが利用という事業ではないので、利用の促進自体が難しいものと考えます。ただ、本当に必要な利用者にとっては、不可欠な事業なので、利用したい人が情報を得られることが大切だと思います。例えばタウン誌などの利用もあるのではと思います。</p>
	<p>平成27年度見込み量及び確保量からみて実績値が下回り続けている結果については、見込み量の設定を見直す必要があるのか、または、必要な人に事業が届いてない状況を示しているのか複数の読み取りができる。今後、事業を必要とする利用者ニーズの再把握とともに、事業の周知については、直接の周知はコメントに書かれてあるが、利用者を本事業の利用につなぐ支援機関に対して、本事業の周知状況及びニーズの見込みについて検証も必要と考える。</p>
	<p>使っているリピーターの方に、どういう使い方をし、どういう「良いこと」があるのかを調査する。また、利用しづらい方の声を拾い、それをクリアするための好事例を出していくことが重要。事業紹介の言葉が固すぎる。「お父さんお母さんが病気になった、疲れた、というときに使っている場所」というかみ砕いた言葉での啓発が必要。虐待や多様な家族が増えている中、大幅な減少というのは違和感があります。</p>

# 「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成30年度実施状況について

事業名称等	意見等
乳児家庭全戸訪問事業	<p>育児不安や育ちにくい児が増えている。支援が必要な家庭の継続支援、他機関との連携の現状を把握する必要がある。</p> <p>数値で見ると訪問件数は少なくなってきましたが、それは乳児の親世代の人口減少もあると思います。訪問家庭の第一子が少なくなり、第3子、第4子時には第5子の家庭も目につくようになってきました。</p>
養育支援訪問事業その他要支援児童、要保護児童等の支援に資する事業	<p>支援が必要な家庭、児は増えている。対応する人員の確保と資質向上は課題の最優先と考える。</p> <p>見込みよりも実際多くの子どもたちを支援できたことを評価したい。また、闇の中で取り残されている子どもたちの現実を打破できるよう今後も支援を充実させていただきたいと思った。</p>
地域子育て支援拠点事業	<p>子育てについてハードル低く相談できる場として、今以上に内容を充実してほしい。子ども支援部会で現在子どもの育ちに不安を持つ保護者へのアンケートで相談しやすい場所として回答が多かった。予算等も考えなければならないが、相談だけではなく、保健所の仲良し教室や味生保育園の親子教室のような内容があると、子育ての不安はより解消される。</p> <p>当事業は場所も増え、内容も充実してきたように思えます。ただ、公民館でしている事業で、保護者が仕事にでて保育園等に児を預けることで極端に少なくなり、予算のみ増えていることで、人数をカウントして予算面をおさえるとか考えてほしいと思います。</p>
病児・病後児保育児保育事業	<p>平成30年は量の見込み、実績に開きがある。病気の時に家庭で過ごしているのであればよい。実績値数の拾い方で、希望者数と受入数、断った件数など比較するものがあれば、量の見込み、供給が足りているかわかる。</p>

# 「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成30年度実施状況について

事業名称等	意見等
ファミリー・サポート・センター事業	類似の他施策等との調整を図る必要があるのではないか。
	ファミリーサポートセンター事業の見込み量及び確保量と実績値については、現在、企業努力により、受診時、買い物時、理美容等の利用時の預かり体制の充実や、他の保育事業(一時保育・特定保育を含む)の利用率の動向とも照合して検証が必要である。
	1年目から4年目にかけて減少している。子育ての援助の形(ニーズ)が変わってきているのではないかと。また認知度はどうか。昨今、子どもを狙った犯罪も横行して、第三者への関わりに抵抗があるのも事実ではないだろうか。
	提供会員の数が増えていない。以前ファミサポの依頼会員になったが、条件が合わず利用できなかった。依頼はあるが、提供者がいないため、利用できない。受講生の人数は少なくなるが、年2回の初級講習会を年3回に増やすなど提供会員を増やす方法はないか。
	提供会員が13名も新たに登録していただくなど、良い成果もある一方で、需要が高いはずであるのに利用実施実績が減少しているのは、工夫余地があると感じます。使っているリピーターの方に、どういう使い方をし、どういう「良いこと」があるのかを調査する。また、利用しづらい方の声を拾い、それをクリアするための好事例を出していくことが重要。

「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成30年度実施状況について  
自由記載欄(第4章部分に関する事項を含む)

意見等

延長保育事業や一時預かり事業について、計画と実施の差異(%)を見てきたが、これらの事業は間違いなく保護者の助けになっている。各園によって運用が異なると思うが、ある程度の柔軟性ととも、市には引き続き事業の実施の後押しをお願いしたい。

# 「松山市子ども・子育て支援事業計画」の平成30年度実施状況について 自由記載欄(第4章部分に関する事項を含む)

## 意見等

・それぞれの事業のご担当者の取り組みや工夫点など、もっと具体的に知ることができればよいと思います。きっと、ご苦労されている点や、大きな成果への取り組みなど、改善点や好事例が拾えると思います。数値でしか見れない事業は、とても危険です。ではどのように情報共有するか？をぜひご検討ください。

・この子ども子育て会議の盛り上がりがないのがずっと気になっています。事務局の方々も、多岐にわたる事業の管理や国への報告など、ご多忙だとは実感します。この会議に足りないものは何か、など検証いただきたいです。未来を担う人財の環境づくりという、市の事業で一番重要なプロジェクトだと私は思っています。

・ニーズ調査ではアンケートを回答する家庭状況、子どもの状況がわかる項目があると、より細かな分析ができる。知ってはいるが利用はしていないなど認知度と利用数の差が見られる場合理由がわかるなど。

・病児・病後児保育事業の利用を障がい理由に断られた。実態の把握をしていただきたい。